

1	事業名	試験研究調査費	予算額	23,600	千円
2	事業細目	(試験研究調査項目) 資源研究調査費(資源利用開発研究)	予算額	221	千円
3	期間	57年度～ 年度	予算区分	県単	
4	担当者	氏家、田沢、岩崎、里井、沢田、遠藤			
5	目的	沖曳網等で漁獲される仔稚アユの生残状況、取り揚げ、輸送方法および畜養、飼育技術の向上をはかる。			
6	方法	(1) 沖曳網漁期の開始前、後に試験操業を行い、漁獲体型調査を実施した。また、漁期中の歩留りや飼育に関する聞き取り調査を行った。 (2) 試験操業漁獲アユの歩留り向上試験を実施した。 ア フラン剤やサルファ剤等を用いた薬浴効果の検討 イ 塩化カルシューム添加濃度と生残率との関係を検討 (実験区は、0、50、100、200、300PPMを設け、現在実験中)			
7	結果の概要	(1) 本年度の沖曳漁獲アユの体型は、1月が0.45g～0.55g、平均体重0.51g、2月が0.24～0.42g、平均体重0.35gであった。 なお、12月のエリ漁獲のものは0.95gで平年を0.21g上回った。 (2) 既存資料より、沖曳網漁場における成長を図1に示した。 (3) 沖曳アユの生残状況等の聞き取りを行ったところ、漁獲初期(2/1～2/6)の歩留りは10～20%と前年までに比べ極めて低く、その後も30%前後であった。 (4) 漁獲アユの疾病検査では、外部や鰓に異常はなく、腸内より杯頭条虫が検出された。細菌、ウィルスの感染は認められなかった。 (5) 漁獲初期の斃死防止対策にサルファ剤やフラン剤等の薬浴およびカルシューム添加を行ったところ、薬浴効果は認められなかった。しかし、カルシュームを添加したものでは、若干良い結果を得た。 (6) 地下水とびわ湖水による生殖調査では地下水区が49.4%～74.3%、湖水区が0～48.1%であった。 (2/20、22、28、3/13日に試験操業を行い、7日間の生殖結果)			

8 主要成果の具体的数値 (図・表 等)

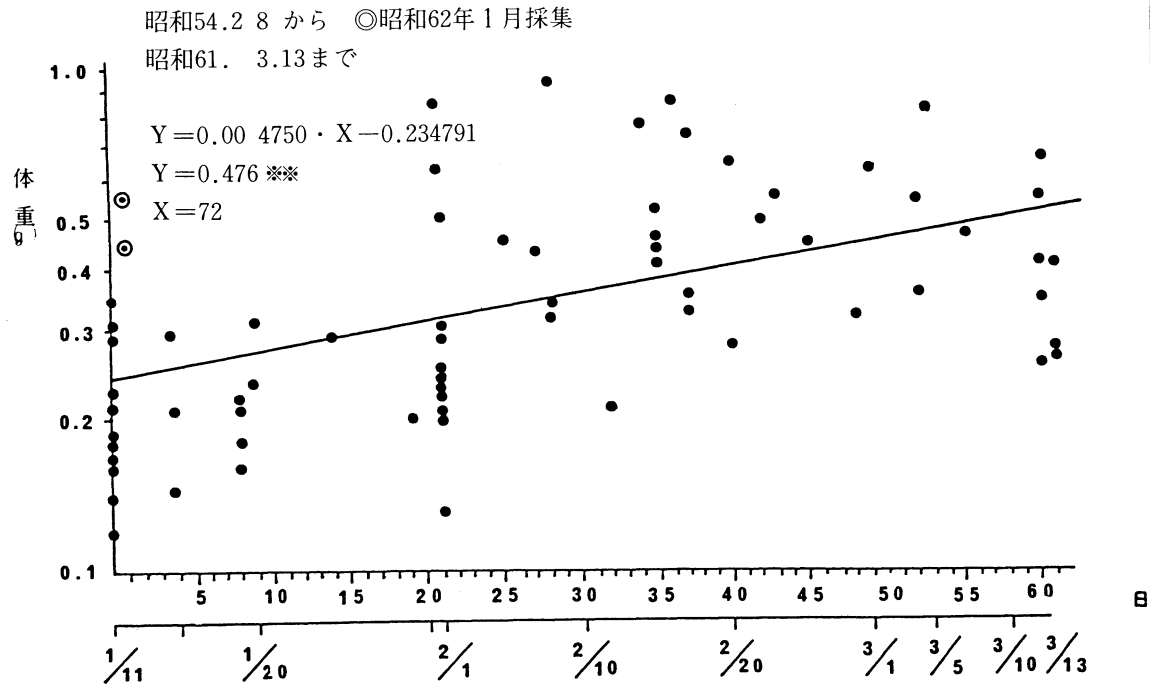


図 1 . 沖曳網漁獲アユの体型

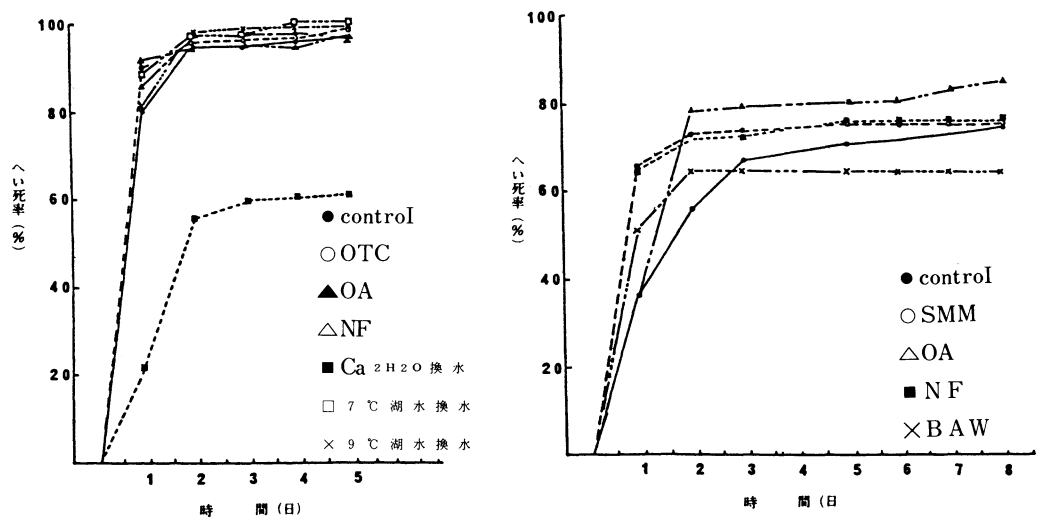


図 2 . 沖曳網漁獲アユの初期生残と薬浴効果

9 今後の問題点

- (1) 漁獲漁具の改良、および漁獲直後の畜養技術 (塩分濃度、収容密度) の改善
- (2) 池入れまでの水温および塩水から真水への換水時期における水質管理

10 次年度の具体的計画

上記問題点の解明および塩水浴 (カルシウム添加) 濃度と塩水浴時間との関係を究明する。